

広島県立日彰館高等学校 創立130周年記念事業募金趣意書

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、広島県立日彰館高等学校並びに広島県日彰館同窓会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、日彰館は、1894（明治 27）年4月27日に、館祖奥愛次郎先生の崇高な教育理念とカリスマ的気鋭情熱をもって、吉舎の地に創立されました。広島県下4番目に古く、地域の支援の中で地域がつくった学校でもあります。爾来、幾多の変遷の中であって、1世紀以上にわたって、県北一帯の高等教育を担い、2万3千余の卒業生を輩出し、地域社会はもとより、国の内外で社会の発展に大きく寄与貢献してまいりました。この輝かしい歴史を踏まえ、来る2024（令和6）年には、創立130周年の記念すべき節目を迎えます。これもひとえに、卒業生の方々のご活躍やご協力、並びに地域社会の多くの方々のご支援、教職員の方々のご指導、ご助力の賜物にほかなりません。

日彰館が1969（昭和44）年に県立移管となった後も地域の学校として、創立以来の「質実剛健」「衆縁和合」を基調に、館祖奥愛次郎先生の提唱された教育理念を浸透させた、特色ある学校・校風を築き、生徒の進路保障・クラブ活動の充実等、魅力ある学校をめざして努力しています。

生徒の個に応じた進路指導を推進し、毎年国公立大学へ複数人の進学者を出し、私立大学・専門学校への進学者の増加、および就職や公務員など、希望する進路を100%実現しています。また、教育目標として、生徒の資質能力の向上とともに、特別活動・学校行事・部活動も活発に行い、人格的育成にも努めています。

私たちは、母校日彰館が築いてきた130年にもおよぶ歴史を誇りとするとともに、母校並びに同窓会の更なる充実と発展を構築して、記念事業を実施するために実行委員会を立ち上げました。

創立130周年の中心的な事業の一つに日彰館高等学校への「教育振興基金」の継続があります。120周年記念事業からの学校教育への支援をさらに継続的なものとしていきます。もう一つには、奥愛次郎先生の建学の精神に立ち返り、コロナ禍をはじめとする経済的疲弊に対して支援する「奥愛次郎記念奨学金」の創設があります。

これらによって、多様な学習ニーズに対応し、より充実した教育機会が日彰館高等学校に学ぶ生徒たちに提供でき、生徒たちの主体的な学習意欲の増進につなげていけるものと確信いたします。また、奥田小由女先生の文化勲章は奥田元宋先生と夫婦ともに受章という栄誉であり、この節目に受章記念も計画していきます。

この記念事業の推進にあたり、全体的な募金の目標額を1,000万円と考えています。つきましては、1口5,000円（できれば2口以上）のご協力をお願い申し上げます。

全国的な少子化・過疎化の波に学校を取り巻く環境が厳しさを増してきています。日彰館高等学校を存続させていくために、皆様方には、今日の社会情勢が極めて厳しい状況の中ではありますが、ぜひとも、創立130周年記念事業推進の趣旨にご賛同をいただき、格別のご支援とご助力を賜りますようお願い申し上げます。また、お見知りの同窓の方々にもお声をかけていただきたく、重ねてお願い申し上げます。末筆になりますが、皆様方にはますますの御健勝をお祈り申し上げます。

謹白

記

広島県立日彰館高等学校創立130周年記念事業概要

1. 記念式典及び記念講演
2. 日彰館高等学校「教育振興基金」（10年継続計画）
3. 奥愛次郎記念奨学金（10年継続計画）の創設
4. 奥田小由女先生文化勲章受章記念
5. 日彰館同窓会基金の拡充
6. 校門前道路整備など

2022（令和4）年8月

広島県立日彰館高等学校
創立130周年記念事業実行委員会

委員長 春田佳伯
副委員長 奥田節子
副委員長 吉田富志雄